

「龍頭が滝の、石の階段にある、一对の記念碑」

龍頭が滝には、滝に向かって左側に、石の階段があります（図1）。

この階段は、36段、長さは約14m、幅約140cm（踏み台部分は約80cm）、傾斜は23度ほどで、やや急な坂道です。階段の下には、石垣も組んであり、堅固な作りとなっています（図2）。

さて、この石の階段を登り切ったところに、一对の石柱があり（図3）、かなり読みにくくはなっていますが、文字を確認することができます。その内容からいって、この石柱は、石の階段の完成を、後世に伝えるために設置された、記念碑だと推測されます。

まず、滝に向かって、右にある石柱については、「人夫氏子中」、「嘉永二年 己酉十月」と彫られています（図4,図5）。また、左の石柱には、判読できる部分が少ないのですが、「施主」と横に彫られ、その下には、3人の名前が、縦に彫られているようです。もう一面には、「石工」という文字を、読むことができます。

「嘉永二年」というのは、西暦では、1849年です。己酉十月の「己酉」は、「つちのとのとり」と読み、嘉永二年の干支（えと）です。また、「嘉永二年十月」は、月にすると、1849年11月15日から、12月14日の30日となります。

「石工」、「人夫氏子中」とありますから、石材加工の職人だけではなく、氏子も全員（氏子中）が、作業に参加したということがわかります。重い石材の運搬は、たいへんな重労働だったことでしょう。工事の完成は、嘉永2年10月です。3人の施主については、どのような人だったのか不明ですが、氏子の代表者や、滝神社の祭祀を担当していた、神職か僧職の人だった可能性が、高いと思われます。

では、なぜこの時期に、石の階段が設置されたのでしょうか。『掛合町誌』によれば、「弘化3（1846）年 このころ連続洪水・蝗（イナゴ）の害を被る 掛合大洪水」、だったようです（881頁）。龍頭が滝では、連続して洪水の起きていた時期に、丈夫な石垣と石の階段が作られた訳ですから、これまで使われていた階段が破損したので、強固な施設に改良したといった、水害との関連があるのかもしれませんが。

嘉永2（1849）年の工事完成から、176年が経過しています。この石段は、龍頭が滝の美しい景観の一部として溶け込み、また、多くの観光客の散策を支えてきました。長い時間が経過したにもかかわらず、石の階段は、比較的良好な状態です。どこかの時点で、補修され、使い続けられているのかもしれませんがね。

